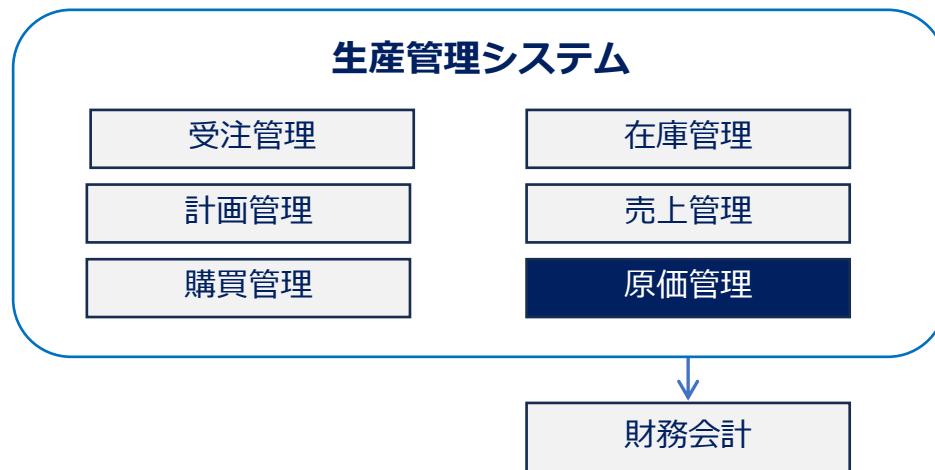


どうやって原価計算システムを構築しますか？

◆ <専用パッケージ活用のメリット> ◆

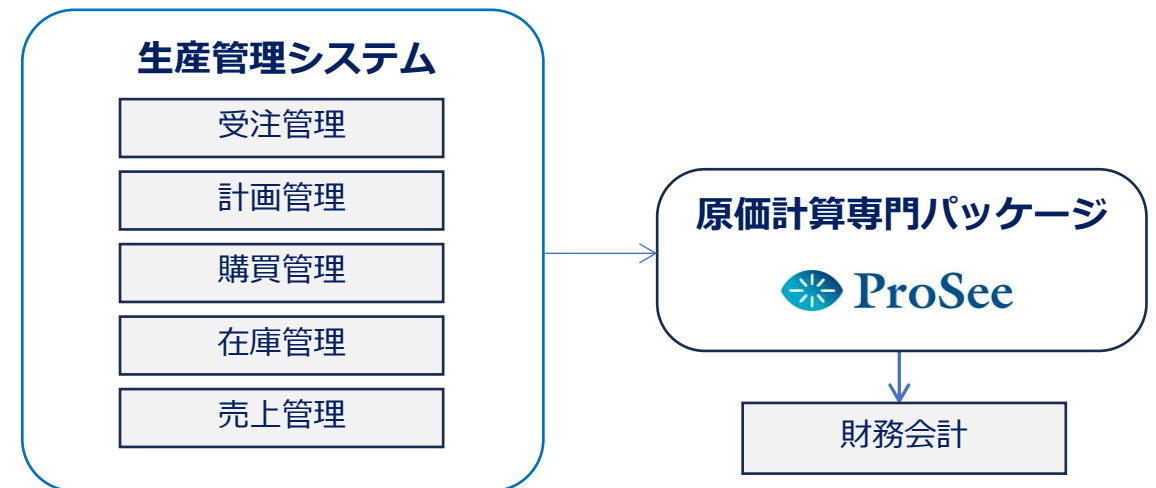
生産管理システムの一部として構築する



- ⊗ 経理実務者から見ると機能が不足している。
- ⊗ カスタマイズ（追加の開発）が発生する→多額の費用がかかる。
- ⊗ 機能が多いパッケージ（ERPなど）は、非常に高額。
- ⊗ システム構築に時間がかかる。（原価管理は、後回しにされる）
- ⊗ 生産管理システムを入れかえる際には、原価計算のしくみも変える必要がある。
- ⊗ 運用の小回りがきかない。（経理実務者の都合の良い時に計算ができない）
- ⊗ 結局、システムから出力されるデータをExcelで加工することになった。



生産管理システムから分離して 原価計算専門パッケージを使用して構築する



- ✓ 経理実務者から見ても**十分な機能**がある。
- ✓ 製造業の経理の実務経験をベースに設計されていて、**使い易い**。
- ✓ ノンカスタマイズ（**追加の開発なし**）で自社に合ったしくみが構築できる。
- ✓ **短期間でシステム化**できる。後からの**変更、拡張も容易**。
- ✓ 生産管理システムが変わっても、**同じ原価計算システムが使い続けられる**。
- ✓ 生産管理システムの制約をうけず、**好きな時に何度でも計算処理**ができる。
- ✓ **業績情報の作成までカバー**されている。（Excelによる作業がなくなった）



原価計算を「分離」することで、**スピーディー**に、かつ**最適なしくみ**を実現します。